

中井町 ひだまり

「男女共同参画推進講演会」を開催しました

男女共同参画で元気なまちづくり

少子高齢化やライフスタイル・価値観の多様化をはじめとする社会状況が変化する中で、これからのまちづくり・地域活性化をすすめていくためには、男女が共に社会のあらゆる分野へ参画することが必要となっています。

中井町では、男女共同参画に対する普及啓発を目的に、毎年、男女共同参画推進講演会を開催しています。

本年度は、立教大学大学院教授の萩原なつ子氏を講師にお迎えし、「男女共同参画で元気なまちづくり」をテーマに開催しました。

誰もが暮らしやすいまちづくり、地域づくりを進めるためには、男女共同参画の視点を取り入れることが重要となっていることなど、身近な事例を交え、解説・アドバイスをいただきました。

今回は、講演会の概要をお知らせいたします。

◆数字で見る男女共同参画社会の現状◆

104位
数字の意味は？

男性と女性がどのくらい平等なのか、各国の男女格差を世界経済フォーラムという国際団体が順位をつけています。

日本は、142カ国中104位でした。

1位は、アイスランド、以下フィンランド、ノルウェーと北欧の国々が続きます。

調べる項目は4分野からなっており、女性の数値が男性に近いほど、平等が達成されていることとなります。

- 政治（女性の議員数等） 129位
- 経済（働く女性の割合、賃金等） 102位
- 教育（大学へ進む女性の割合等） 93位
- 健康（健康寿命、男女比等） 37位
- 総合 104位

30%
数字の意味は？

2020年までに社会のあらゆる分野において、指導的地位に女性の占める割合を30%にするという政府の目標値です。

地域においても、自治会長、消防団、PTA等の組織では、女性が実質的な活動を担っていたとしても、トップは、男性であるとする性別役割分担が払拭できていません。まちづくり、地域活動へ男女共同参画の視点が十分に活かされていない現状です。

私らしく、自分らしく生きる社会である「男女共同参画社会」をつくるためにも、この状況を変えていくことが必要です。



講演会でのお話から



◆ 機会の平等 ◆

私は、まっすぐに大学の教員になっただけではありません。大学卒業後、広告代理店に勤務しました。

当時は、男女雇用機会均等法もありません。4年生の女子学生には、求人もほとんどなく、「機会もない」「チャンスもない」状況です。

就職活動は、非常に大変でした。

◆ 選択 ◆

なんとか2つ合格しました！

2つ合格したということは、どちらか選択ができるということなのです。

ひとつの会社は、すぐにオーストラリアに飛んでくださいと言われました。私には、世界を駆けめぐりたいという思いがあったので、友人たちは、私がそちらに行くかと思っていました。

◆ 希望 ◆

でも、私は、もうひとつの会社を選びました。

なぜなら、「女性の副社長」が居たからです。女性の副社長が居たということが、私に「希望」を与えてくれました。

もしかしたら、頑張れば「副社長」になれるかもしれない。あるいは「社長」になれるかもしれない。自身の可能性を感じることができました。

◆ 石の上にも3カ月 ◆

でも、広告代理店に勤めたものの、「石の上にも3年」でなく、「石の上にも3カ月」で辞めさせていただきました。

辞めた理由は、長時間労働で体を壊したということ…寿退社、結婚退社です。

当時は、結婚したら退職しなければならぬという慣習がありました。

◆ 気づき ◆

せっかく、苦勞しても「女」というだけで…実際に社会に出て、これは、おかしい。何とかなくてはと学び直しを決意しました。

大学という場合は、18歳から22歳までの学生だけが居るところではない。学びたい人が、いつでも行ける場所なんです。

◆ 固定観念 ◆

私は、赤ちゃんを連れて大学に行き、講義を聞きました。

えっ、赤ちゃんって大学に来ていいの…？

固定観念、思い込みを打ち破り、ひとつの波紋を投げかけることになりました。それは、学生たちにとって非常にいい影響を与えたようです。

◆ 支え ◆

周りの学生たちが、「なっちゃんのお赤ちゃんを見る会」を作ってくれました。自分たちで何かできることはないかと思ってくれたんです。

みんなの支えを受け、私は赤ちゃんを育てながら無事、大学を卒業することができました。

◆ 喜びやすい社会へ ◆

男性、女性に関わらず、自分がこうしたい、こうありたいと望んだときに、「どうぞ」とチャンスが平等に与えてくれる社会でなくてはなりません。

一人ひとり、それぞれの個性を活かすことができる社会でなくてはなりません。

そして、誰かがこんなことをやってみたいと言った時に、応援することができるひとりにもなる、そんな男女が共に活躍することができる社会をつくっていきましょう。



講師 萩原 なつ子 氏